



糖尿病と歯周病

—その密接な関係—

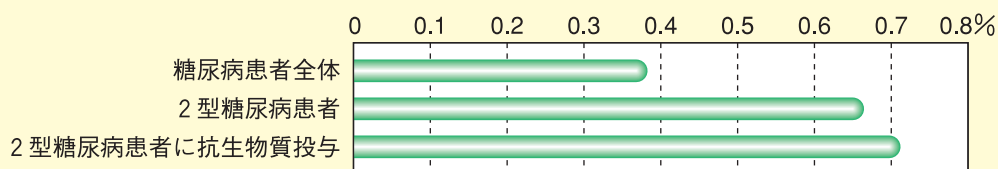
最近、糖尿病と歯周病の密接な関係が注目を集めています。糖尿病では歯周病にかかりやすく、また、歯周病の状態が悪いと血糖コントロールに悪影響を与えることが明らかになっています。

歯周病は糖尿病を悪化させる一因です

歯周病原菌の菌体表面のリポポリサッカライドがマクロファージに貪食された時にサイトカインの一種であるTNF- α が産生され、これがインスリンの活性を障害し、血糖値のコントロールを悪くすると言われています。糖尿病と歯周病が合併し、歯周病が重度な場合に糖尿病の予後が悪くなるという報告や、歯周病を治療すると糖尿病が軽快した報告があります。

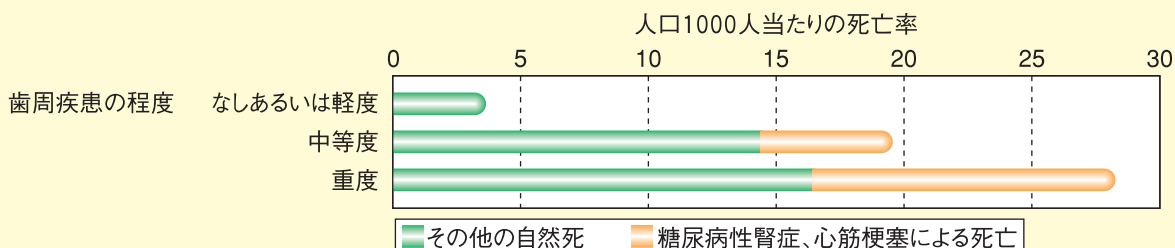
糖尿病の患者さんの経過が思わしくない時に、口の中を診て歯肉の腫れや出血、口臭が気になる場合には、かかりつけの歯科医で診てもらおうように勧めてください。お願いします。

■ 歯周病治療によるHbA1cの減少率 (J.Dent.Res.Vol.84 2005 p1154 Janket他)



定期的な歯石除去等歯周病治療を継続的に受けることはHbA1cをコントロールする有効な方法です。抗生物質投与では経口血糖降下薬投与と同等の効果があります。

■ 糖尿病患者の死亡率 (Diabetes Care Vol.28 2005 p29 Saremi他)



糖尿病患者で歯周病が進行すると死亡率が大幅に増大し、糖尿病性腎症、心筋梗塞が原因で死亡するケースでは歯周病との関わりが死亡率の約4割になります。

糖尿病は歯周病を悪化させます

高血糖になると、歯周組織の血管の基底膜が肥厚し、歯肉部分の血液循環が悪くなります。また、歯周病原菌を貪食する多形核白血球の機能が低下し、さらに、歯肉のコラーゲン線維を溶解するコラゲナーゼの機能が亢進し歯周病が悪化します。

歯周病は患者さんから歯を奪い、食生活に大きく影響します。糖尿病の治療とともに、口腔内を清潔に保つ重要性を説明して下さるようお願いいたします。



健全な歯肉



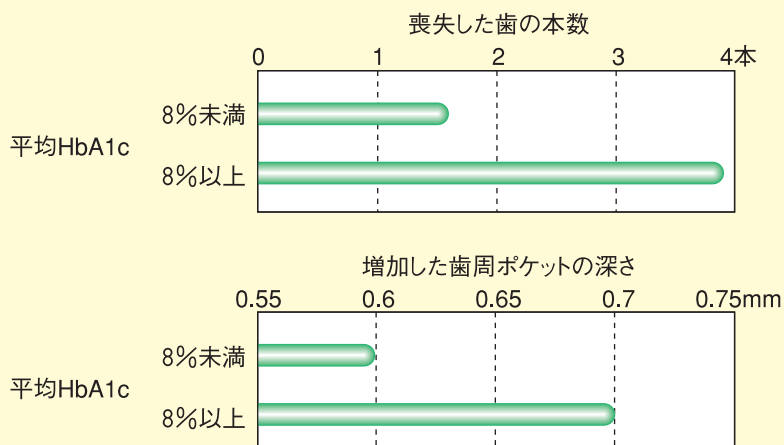
歯肉が淡いピンク色。歯と歯の間の歯肉がシャープにしまっている。

歯周病の歯肉



歯と歯の間の歯肉が丸みを帯びて赤く腫れている。歯みがきすると出血しやすい。

■ 血糖コントロール別に見た10年間における歯科所見の変化 (診断と治療 Vol.95増刊号 2007p338 柴崎)



10年間の平均HbA1cが8%を超えると喪失する歯の本数は倍になり、また、歯周病の進行程度を示す歯周ポケットの深さもさらに大きくなります。